

# 検修合理化 反対闘争

## 成東駅派出所続など一定の要員バックをかちとり

# 2月3日未明「大筋了解」



職場代表もまじえ連日の徹宵交渉（手前は当局）。2月3日未明。

# 日刊 動労千葉

83. 2. 4  
No. 1258

### 国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄道）九三六六（公衆）〇四七三三二七二〇七

## 原則的・大衆的実力闘争 できり用いた 重要な成果

検修下回り合理化反対の闘いは、一月三十一日以降連日の徹宵交渉において当局を厳しく追及してきました。最初の当局提案を実力で追いこみ、「二月一日強行実施」の方針を粉碎し、全組合員による三月一日以降の「三六破棄・非協力闘争、減産闘争」配置の実力闘争体制の力をもってついに二月三日未明、「成東駅派出所廃止方針の白紙撤回をはじめとする三三名の要員バック」を骨子とする当局側の修正提案をひき出すことに成功しました。その内容と闘争の諸情勢および他労組との共闘関係等を検討したわが交渉団と動労千葉闘争委員会は、一定の前進を確認し、二月三日午前四時三〇分、「大筋了解」とし、「動労千葉闘争指令第六号」および「第七号」にもとづく闘争を集約しました。

### 大衆的実力闘争で当局を追いこむ

動労千葉は昨年の第七回大会以降、検修下回り合理化粉碎にむけ、検査検修分科会および検修4支部を中心に職場集会、とりわけ12月1日以降は「無協約下」での創意的職場闘争を原則的かつ大衆的かつ不屈に闘いぬく一方、職場代表も積極的に参加しての団体交渉において当局を厳しく追及してきました。当局は当初、昨年十一月に「57・11ダイヤ改との同時決着」を狙って攻撃してきましたが、われわれはこれを粉碎しました。当局は再び「二月一日、提案通り一步もゆずらず実施する」との本社直轄指令の強硬な姿勢で臨んできました。われわれは、当局の論理を真向から完全にうちくだき、三月一日を期して「三六破棄・非協力闘争」に突入した上で、更に「地上勤務の減産闘争から乗務員の減産闘争をも配置して、連日にわたって徹宵交渉で当局を徹底的に追いつめ、ついに当局方針をおし返えし、「成東駅派出所存続、三三名の要員バック」をかちとったことは極めて重要な成果であり、意義をもっていきます。

### 更に、三里塚―国鉄―中江選挙の勝利へ！

当局はひき続き、「58・X」にむけ、「貨物全廃」「内達一号・ダイヤ作成基準改悪」乗務員二割削減等の攻撃を狙っています。そして重要なことは、こうした攻撃を「ブルトレ」「乗車証」「57・11ダイヤ改」「現協協約」そして今回の「検修合理化」と同じく、動労「本部」革マルを尖兵にして、動労千葉・国労の闘いを封じこめて強行するという当局―革マル連合のパターン（反動太田労政の本質）確立を狙っている事をはっきりと見すえて、粉碎していくことです。政治、国鉄、三里塚などあらゆる面での「決戦」時期が到来しています。反動中曾根体制下での臨調攻撃を大きくうち破るため、「3・27三里塚」「反合・春闘・国鉄決戦」「中江選挙必勝」にむけ、全組合員の総決起で闘いぬきましょう。

今回の闘いの特徴は、「外注化を認め、自ら効率アップを要求する」裏切り者が登場したことです。いうまでもなく「働こう運動」をかちとまわっている動労「本部」革マルです。そもそも、この検修下回り合理化の攻撃は、動労「本部」革マルの裏切りによって昨年の三月三十一日に中央段階で妥結され、それ以降各地方への個別強行攻撃として当局の一方的実施姿勢のもとで、非常に困難な状況での闘いを最初から強いられたものでした。動労「本部」革マルの「働こう運動」路線の中では、「われわれの側から二〇三割働か度を高めるからということ」を当局に認めさせない限り、外注化反対と言っても空論」と掲げているのですから、「検修作業はもっと少い要員で充分やれるはずだ」と主張して攻撃してくる当局に対して「そもそも最初から反合闘争として闘うという方針も気持ももっていないというのが現実です。事実、千葉局より一足先に攻撃をかけてきた高崎管理局における検修合理化をめぐる「闘い」は、「本部」革マル反動分子が現場労働者の強い不満と抵抗を上から押えこんで、当局の攻撃論拠「もっと少い要員で間に合はず」：云々をそのまま認めた上で「合理化された要員で、当局が外注化を予定している作業分もよけいに働くようにするから、だから外注化方針を撤回してほしい」と、要求するといふありさまなのです。動労「本部」革マル反動分子が率先して全国の闘いを押えつけてまわっているといふことです。